

社説

内閣變動と自由黨

今内閣、松方の入閣談に付き種々の變態を現はし遂に内閣の變動を致したるは自由黨が最初より二人の入閣を非として反對したる其結果として見る可きが如し世間或は同黨の舉動を認めて區々たる政黨の力を以て政府を操縦せんなど試みたるは無智の至りにして願望共に語る可らずなど云ふものもあれども我輩の所見は大に然らず自由黨の舉動素より感服せざるものなきに非ずと雖も政治上の正面より同黨の舉動を觀察するときは其主義に於ては一點の非難を見ざるのみか斯くありては其政黨の本質を得たるものと云はざるを得ず抑も板垣伯が自由黨の總理として入て内務の地位を占め黨中の重立ちたる者を用ひて大に政府を操縦せんと試みたるは同黨本来の主義たる政黨内閣の實行せんとしたるものにして立憲政黨の本分を盡したるに外ならず其主義は我輩の年來主張する所にして他年一日その實行を期する所なれども只我國目下の時勢に於て未だ可ならざるものありと云ふ次第は明治政府は今の元勳輩が造り出したる政府にして創立以來尙ほ三十年に滿たず元勳輩は現に生存して氣力も其老健に其人物は兎も角も政界の名譽他に比類なくして一般の希望を盡すの事實は自から掩ふ可らず即ち今の政黨の如き目から期する所の主義はありながら實際に勢力を張らんとするに其元老を首領に戴く必要あるを見ても世間に其聲望の盛なるを知る可し左れば昨年板垣の入閣に就ても其主義を實行するの便宜より云へば内閣總理の地位を占め自黨の人々を以て政府を組織す可き管なれども實際には政府の一部局なる内務の當局者として二三の議員を屬僚に登用したるに過ぎず政黨内閣主義の實行に望む可しと雖も政黨の力を以て全政府を操縦するが如き時勢の尙ほ未だ許さざる所にして目下の計は政黨たるものが次第に歩を進めて世情の變化と共に其實行を期するの外なきのみ今回の變動に板垣伯は伊藤總理と共に辭表を捧げたりと云ふ未だ確報を得ざれども果して事實ならんは一見、自由黨の失敗と云はざるを得ず世間に於ても斯く認むるものとならんは其失敗たるに於ても時勢の不可なるが爲めにして本来の主義を實行するの熱心より一團に進まんとして願うたるものに外ならざれば政黨の本質より見れば名譽の失敗にして自から省みて悔ざる所はなかる可し我輩は事其勇氣に感服するものなり思ふに時勢の變遷は其だ迅速にして今の明治政府必ずしも百年の政府に非ず政黨の進歩は時々刻々進んで止まざるものとすれば自由黨たるものは此一敗に遇てます一敗を以て大奮に歩を進めて本来の主義の實行を期するときは其望決して空しからず自由黨の首領として單に政府一部局の地位を得せしむるに止まらず全政府を率て自黨の掌握に歸し其政黨内閣の實行を見るも敢て疑はざる可し自由黨は我國の政黨中にて歴史もあり黨員も少ながらず自ら政黨の一方に勢力を占むるものなればいよく其勢力を以て次第に進んで主義の實行を期せんものと我輩の望する所なり

李鴻章英の無情を説ふ

李の英國に海邊せる目的と其眞情なりとて倫敦タイムスの云ふ所に據れば日清戦争の起らんとする時に當り英國若し双方の間に周旋して未然に之を拒がんせしむらば其功を奏したるのみならず支那に於ても復た斯くある可しと期せるに依り敢て軍備を爲さざりしに意外にも其は超然主義を守り緩和周旋の勞を執らざるを以て支那は其世襲可からざる運命運取の屈辱を被るに至れり是れ皆英國が支那に無情なるの臻す所なりと李は頻りに其を怨むるもの如し
英の同情と關稅の引上げ、李が今度英に來りし目的は英をして支那開港場の關稅増加を承諾せしむるにあるものと疑ふ可からず而して其理由とする所は前日の無情に依り何れも同情を存するの證とす可きを第一とし銀貨下落の甚だしきが爲め該國の收入是れまでの半額に減じ財政頗る困難なる上に日本へ對して既に舊條約を棄て對等條約を結ぶ以上は支那に關稅増加を許さざる可し合はざる可し况んや之より得たる歳入は都て兵器の購買に充て終に歐洲の地に落つ可きものなるに於てをやと暗に利を以て英國の承諾を誘はんとする様子なり又李は今後五ヶ年の間に海陸軍を始め其外國諸國の制度に改良を施し前日の如き耻辱を再び招かざるの工夫を爲す可き旨を斷然誓ひたるよし
●東亞非利加の騷動 別項の外國電報に據れば東亞非利加ザンザール國王サイドハミドの逝去に乗ヒサイドカドは自から借して王と稱するのみならず兵を率ゐて王宮を襲ひ事變が起る可なりと云ふハミドは千八百九十三年に其父アリに代りて王位を繼承せしなれば位に在りしるに漸く三年に過ぎず抑も彼の國は千八百五十六年に獨立となり當時の國王英遠剛毅にして追々領土を擴張せしが其れより下つて國威振はす千八百九十年獨逸へ土地を割讓せし後は東亞非利加海岸の一小地と近海の數島を有するのみなりしに更に海岸を英の東亞非利加會社と伊太利のベナデル會社へ貸與し又九十年の末に自から英の保護國となりて治外法權を讓り續て他の歐洲諸國へも此特典を與ふるに至れりザンザール國の歴史は大要斯の如くなれば今度カドが薨逝を命じて仔細に就ては未だ明かに之を知るを得ず後報を俟つて記す所ある可し
●秋田縣會と秋田縣知事との紛擾 秋田縣會と平山秋田縣知事との紛擾は今に始まりたるものとあらざるが此程縣有地を無代價にて兵營敷地に寄附せんとするの議案が縣會に附せらるゝや縣會は縣知事不信任、議案返却を決議したり依て知事は直ちに其議を内務大臣に具申したるも紛擾の原因、知事の意見は未だ明瞭ならざるよしにて縣會解散せらるゝや否やは未決なりといふ尤も一兩日中には知事より詳細の具狀書を上呈し來るか或は知事自身に上京するかの境も判然すべしと云へり
●昨朝の天氣 昨日午前七時雨雨東海岸なる銚子の近傍に於て低氣壓七百五十程を生じ北東に向ふて進行したるにぞ中央氣象臺より東海岸なる第六區及び第七區の東部を警戒したるが東京に於ては昨朝多少の風雨を見たは全く此低氣壓の影響なるべしといふ昨日午前の所にては西部及び北部に在りては澄したる

氣候通常に復すべし

氣象の變動なく中には微雨を催はしたる地方もあれど又快晴の地方もありしとなり又兩三日前より俄に炎熱に洗ひ去られて忽ち冷氣を感じたるは必竟北海地方に高氣壓を生じたる一時の變態に基けりと云ふ
●氣候通常に復すべし 去る二十六日の午後數回の降雨あり一昨日も同様の天氣にて氣候激變し秋涼感に催はしたるものと前報に記したる通りにて猶ほ昨朝も細雨降り續き一層冷氣加はりて老人子供は袷衣、或は單衣の上は冬羽織を穿ねる者もあり此氣候が此後土臺とならば早や冷氣にて稻作に害あるべし採取越し苦勞を爲す者さへありたれば午後より追々晴れ模様と爲り四時頃には靄空曇らぬが如く快晴を告げられたればめで氣候も通常に復するならん
●米國周遊船出帆せんとす 曩に日蝕皆既觀測の爲め渡來せし米國の天文學者ドット氏一行の乗組み居る米國周遊船コロネット號は明後日支那へ向け横濱を降船する事なり
●脱艦兵の自首 目下横須賀軍港碇泊中の軍艦吉野乗組二等機長兵曹吉三郎は去る十八日無断にて同艦を脱し郷里山日縣に歸り居たるが心中悔悟する所ありてか去る二十五日廣島縣廣島市堺町憲兵屯所に自首すらく自分は去る十四日命によりて他の水兵等と共に横須賀より小汽船にて某所に赴き已に脱走も終りたれば上陸して某茶亭に憩ひ居たるが何時しかトコロと假裝みて頓て目を覺し見るに他の水兵は一人もあらざる察する所自分を出返り歸途に就きたるならんと直に追馳して至りたれば小汽船は已に影だもなし歸はたりたりと心中大に驚きしが斯くあるべきにあらざれば陸路横須賀へ歸り分隊士官某海軍少尉に向て具に過刻の事由を陳べ只覺悟の罪を謝せしに無情なる少尉はハタと腕付け物をもちいはず船料を採て顔面を打撃たり自分は覺えず悲鳴を發し兩手を合せて伏拜みたるに少尉は漸く網を放し船が七日間の疾足を申渡したるが自分は此苦難の爲めに身命所々脱上り機務に服すべからざるならざれば軍醫の診察を受け休業の證明を得て休業室に引籠りたるに少尉は之を認めて大に嘲笑し汝が休業は全く怠惰より出づるものにして決して病氣あるに非ざれば直に出で業務に就くべしと嚴命したり事此に至りては無法といふも餘りある次第なれば自分は斷然一身を捧げて海軍下士卒の格となし不法の咎、不法の懲罰等に苦しむるの救済せんと思ひし願末を背面に認めて軍法會議に訴へ出でたるに暫くして少尉より汝は不法打撃の事軍法會議に訴出でたるよし其始末を更に書面に余に申出づべしと諭せられたり斯る有様にては到底目的を達し得ずしと思ひしれば自分は更に決心して高等軍法會議に不法打撃の罪を訴へ出でしに是又一向に取合ひ與れざりしかば自分の落膽一方ならず此上は身を置して目的を達すべき時機の至るを待つに若かずと遂に脱走して駒山山口に着付しに郷里の人々を以て全く自分が休業を得て歸來りたるものならんと思ひ疑り敢て待てる方もなかりしより自分は更に決心を翻へして歸郷の事を思ひ立ちたり然るべく脱走計以下さるべし云々尤も同人は脱走後未だ脱走者として處分せらるべき時日を經過し居

蟬

第十 其時竹庵は八兵衛問答ひを聞きて嘆きながら膝を笑しな事も出来にも敢て置いぬる好いものを一度つたのだ夫れ

